

学生の皆さんへ

2024年度教務委員会

生成系 Ai の利用について

近年、生成系 Ai は飛躍的な成長を遂げています。しかしながら、情報化社会において、生成系 Ai は、便利なツールですが、使い方によっては多分に危険性があります。以下の注意点をふまえ、対処の方法を共に考えてゆきましょう。

1) 生成系 Ai が出した回答のみの使用を避ける（コピー＆ペーストの禁止）。

短期大学修学過程における授業レポート等の課題提出にあたって、生成系 Ai に依存することは、創造力、発想力、表現力など高等教育機関で培うべき力に対して何のトレーニングにもなりません。高等教育機関で学んでいるならば、思考の放棄は避けなければならないことですが、こういった行為は思考の放棄と言えます。場合によっては、授業担当者から提出物の記述内容について根拠を問われる場合もあります。

また、生成系 Ai の出力に他人の著作物の内容が含まれていた場合、そのつもりがなくても、既存の著作物に係る権利を侵害する恐れもあります。生成系 Ai コピー＆ペースト（いわゆるコピペ）は学生皆さんの力にならないだけでなく、倫理的問題を含んでいます。生成 AI の文章をレポートや論文でそのまま用いた場合、公正で厳格な成績評価の観点から、不正行為（盗用や剽窃）とみなされることもあり得ます。

よって、Ai の授業等での活用については各担当教員の指示に従ってください。なお、心配や疑問がある場合も教職員に相談してください。

2) 個人情報や機密情報の入力を避ける。

一度限りの入力を契機に生成系 Ai が自動的に学習を重ね、間違いを含んだ情報を蓄積していく危険性があります。このような被害（ネット上で起こる誤った情報の蓄積）を救済することは困難ですし、他者の権利を侵害し、情報漏洩を来した場合には損害賠償等の問題に発展する可能性があります。

3) 批判的思考を持つ。

本学での学びは日々、機械任せではなく、皆さんそれぞれの発想力や思考力、表現力の醸成を行っています。自らの発想に基づいた成果の発表であるからこそ感じられる緊張感や充実感、授業やゼミナールにおける成功体験と失敗体験、やりきった後の達成感、こういったすべての経験、学修過程一つ一つの積み重ねを大切にしてください。

そして、批判的精神の醸成も大切です。自ら考え、鵜呑みにしない生活態度が平和な社会を存続させます。生成系 Ai が提示する情報だけでなく、従来のマスコミや SNS に提示される情報と同様、自らその信憑性と根拠を常に考える態度を身に着けましょう。

(2024年度前期オリエンテーション資料)